



助産師レター



Vol.43
2020.11

滋賀県看護協会助産師職能委員会

2020年はCOVID-19に始まり、全世界に感染拡大し、日本の医療にも大きな影響を与えています。そして、今でも感染の勢いは衰えず医療現場で日々奮闘され頑張っておられます。皆さんこんにちは、助産師職能委員長の溝口です。初田副会長をはじめ今年も8人の職能委員と共に頑張って周産期医療を盛り上げていきたいと思ひます。宜しくお願いします。

(委員長:溝口 浩子)



「周産期医療に関わる看護管理者及び助産師研修会」を開催いたしました！

今年度初めて、地域における安心・安全な出産環境を提供できる周産期医療に関する看護職のネットワーク構築の推進として、看護管理者研修会を開催しました。

コロナ禍ではありましたが、44名の参加があり、「今後の滋賀県における周産期医療体制の展望」と題して滋賀医科大学の村上教授にご講演頂きました。2024年から始まる、医師の時間外労働規制で、滋賀県内の、周産期医療体制が大きく変化していく事、そして、それに伴う助産師の働く場所や、働き方が変わる可能性がある事を示唆されました。

反響は大きく、「今後の滋賀県の周産期医療の方向性が理解できた」「定期的に新しい情報の研修会を開催して欲しい」「今後、働く助産師の意見を取り入れた周産期医療体制の検討を要望したい」などの意見がありました。

今後、周産期医療の充実に向けて、看護管理者のネット小ワークを構築し、全ての妊産婦に充実した看護が提供できる様に取り組んでいきたいと思ひます。



「診療所助産師の就業の実態と助産師実践能力向上支援に関する調査」アンケート

令和2年3月に県内の産科診療所に勤務する助産師を対象へ、産科診療所で働く助産師の現状や課題を明らかにし、課題解決に向けた取り組みや助産師実践力向上支援に活かすことを目的にアンケートを行いました。アンケート結果の抜粋をお知らせします。

＜調査結果からの課題と要望＞

- ・看護協会の入会率が少ない(理由:入会金が高いとの声が多い・研修会に興味のあるテーマが少ない)
- ・診療所の課題として、マンパワー不足とそれによるケアの充実がはかされていない

＜課題への今後の対応＞

- ・調査結果の課題を周産期医療看護管理者ネットワークで共有する
- ・助産実践能力向上のために、診療所で就労する助産師の継続教育を支援する(①参加しやすくする魅力ある研修会の運営企画②病院と診療所の連携を強化するために各施設のスタッフ間での交流が図れる機会の企画)

アンケートへのご参加いただいた助産師の皆様、ご協力ありがとうございました！



様々な現場における新型コロナウイルス感染への対応を知り、看護職が互いに連携する中でこの困難な状況を乗り切る方策を語り合い、明日からの活動の原動力を得る機会とするために、保健師職能、助産師職能、看護師職能から現場の活動報告がありました。


新型コロナウイルス感染症対策の課題と対応

妊娠期

集団指導: ほぼ中止
助産師外来にて個別対応で指導
別途費用がかさむ他
接触機会を減らしたい意向もあり、受講者は低下
外来待合においてもソーシャルディスタンスのため、妊婦同士の交流が少なく、妊娠期の不安が増大

滋賀県の取り組み

不安を抱える妊婦への分娩前のウイルス検査助成事業



対象: 妊娠35週前後の妊婦
感染を疑う症状のない方
相談: かかりつけ産婦人科医



分娩期

①分娩時の家族の立会いがほとんど施設でできないため、助産師によるサポートが重要である。
②それぞれの施設でマニュアルを作成し、シュミレーションを行っている
(マニュアルは施設によって、様々である)
例) 産婦の移動 新生児の搬送
・帝王切開時のOPE室での動き方
(OPE室・麻酔科・小児科などの他部門と連携)
③スタッフの感染対策の知識が向上している

新生児期

早期母子接触: コロナ陽性の場合
ソーシャルディスタンスを守るため、実施せず
病院によれば、母子
①小児科入院
②NICU入院
③産科扱いにて入院
新生児の取り扱いは、施設により様々

「感染から児やスタッフを守る」だけではなく、「児が家族になれる」を支援

施設での取り組み

リモート面会: タブレットを購入し、家族の携帯やタブレットで児の動画を撮影

赤ちゃん日記
毎日の写真を印刷や日々の様子について記録

テレビ電話(時間制限あり)

研修会開催報告「臨床推論」

令和2年8月22日(土)

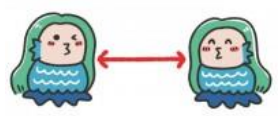
「臨床推論を用いた助産師教育を学び実践力向上を目指そう」



講師に昨年度同様、京都医療センター附属京都看護助産学校、伊藤美栄先生を迎え、助産師に必要なフィジカルアセスメントや緊急性を要する病態の診断・治療の理解、事例からの学び方を学び現場での教え方を学ぶということを講義していただきました。CloCMiPの必須研修であり、今後も継続していく予定です。

令和2年度助産師キャリアアップ応援事業研修

令和2年9月26日(土)に滋賀県助産師キャリアアップ応援事業(新人助産師・中堅助産師)開校式が開催されました。COVID-19の影響で例年に比べ中堅の研修施設に影響がありましたが、内容も充実でき、より盛りだくさんの研修ができる運びとなりました。新人研修は、滋賀県下の新人助産師の交流も兼ね、分娩介助のシュミレーションや、フィジカルアセスメント等の研修を行っていきます。中堅研修は、各施設で研修を行い、自施設で経験できない内容を学び、知識を広げ、今後の強みとして活躍されます。



新人助産師さんへのワンポイントレッスン

母体搬送の場面にあなたが遭遇したら...

- ・社会的な面の情報も伝えてもらえると best!
- ・出血での母体搬送ケースは18Gでルートを! 正中、手背でのルートキープは避けてね。(搬送先ですぐにOPになるかも!! 輸血するかも!!)
- ・出血があれば正確な量を伝えてね。
- ・搬送前のバイタルサインを必ず伝えてね。



令和2年度助産師職能委員の紹介

- 初田 聡美(副会長): 市立大津市民病院
- 溝口 浩子: 済生会滋賀県病院
- 岡田 幸栄: 近江八幡市立総合医療センター
- 西村 里江: 大津赤十字病院
- 中村 美由紀: 聖泉大学
- 平本 留見: 滋賀医科大学医学部附属病院
- 押谷 優子: 長浜赤十字病院
- 宮崎 真由美: 高島市民病院